



日本臨床麻酔学会 第39回大会

会 期：2019年11月7日(木)～9日(土)

会 場：プリンスグランドリゾート軽井沢 (軽井沢プリンスホテルウエスト他)

会 長：齋藤 繁 先生 (群馬大学大学院医学系研究科 麻酔神経科学講座)

ハンズオンセミナー

適切な筋弛緩モニタリング普及のための ハンズオンセミナー

座長

岩崎 寛 先生 (社会医療法人 札幌禎心会病院)

日時

2019年11月8日(金) 8:50～11:50

会場

第8会場 (軽井沢プリンスホテル フォレスターナ軽井沢 アクトロ)

— Program —

座長より：ハンズオンセミナー開催の目的と意義について

講演Ⅰ：**筋弛緩モニタリングの変遷** **中塚 秀輝** 先生 (川崎医科大学 麻酔・集中治療医学教室 教授)
筋弛緩モニタリングの歴史と推移、筋弛緩薬と筋弛緩程度評価の変化、JSA指針

講演Ⅱ：**筋弛緩モニタリングの臨床** **鈴木 孝浩** 先生 (日本大学医学部 麻酔科学系 麻酔科学分野 主任教授)
筋弛緩程度測定方法 (force-displacement, 加速度、筋電図など) の特徴を解説し、筋弛緩程度評価をする際の刺激方法 (単収縮、TOF、DBS、テタヌスフェード、TOFカウントなど) を取り上げ、なぜTOFとTOFカウントが用いられているのかを説明する

講演Ⅲ：**筋弛緩モニタリングの留意点** **高木 俊一** 先生 (日本大学医学部 麻酔科学系 麻酔科学分野 准教授)
刺激電流の強度と方向、最大上刺激とは、最大上刺激以下でのTOF比は？
加速度プローベの着ける方向、観察だけのTOF比とTOFカウントは？
加速度と筋電図測定の反応の特徴は？等について解説する

講演Ⅳ：**より適切な筋弛緩モニタリングのコツとピットフォール** **岩崎 肇** 先生 (旭川医科大学 麻酔・蘇生学講座)
TOFウォッチ® SXによるキャリブレーション、baseline 設定のポイント、回復過程観察の必要性について、片麻痺や透析シャント造設などの患者要因によるピットフォールなどの評価などについて解説する

ハンズオン：適正使用のための筋弛緩モニタリング手技の実際

インストラクター：高木 俊一 先生、岩崎 肇 先生 他

※参加費は無料です。学会HPよりお申し込みください (受付中) <http://www.congre.co.jp/jsca2019/advance/index.htm>

日本神経麻酔集中治療学会指導医認定制度 5単位を取得できます。受講後単位取得の受講票をお渡しします。
指導医申請についての詳細は、日本神経麻酔集中治療学会ホームページでご確認ください。

共催：日本臨床麻酔学会 第39回大会 / 日本神経麻酔集中治療学会 / 日本光電工業株式会社